

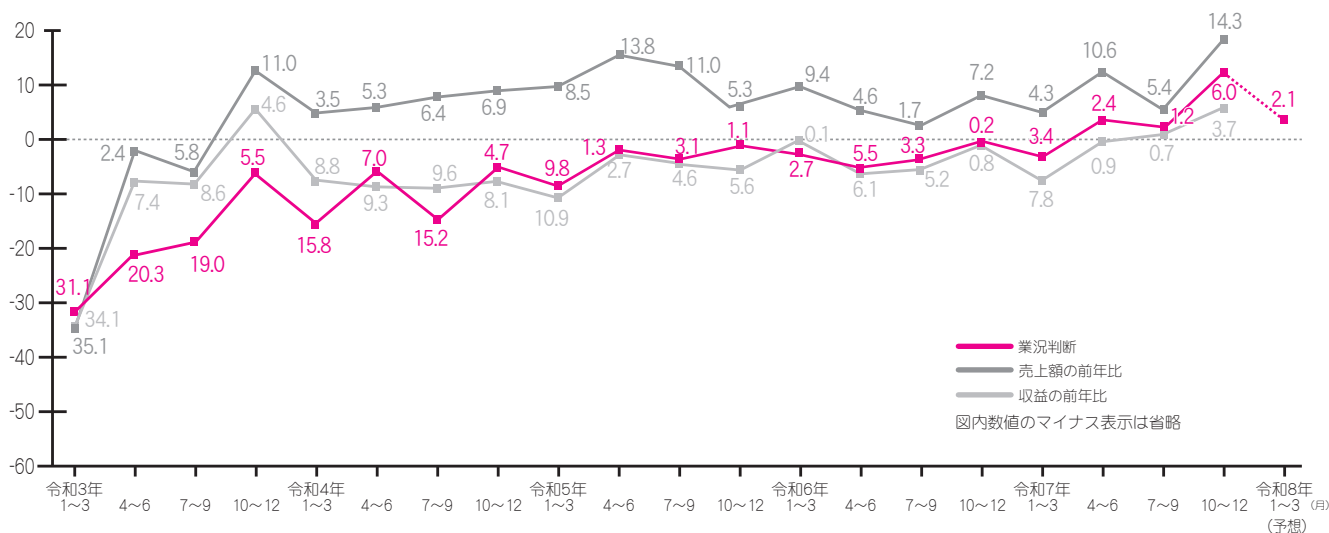
景気の概況

●経済・物価の現状と見通し

わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。海外経済は、各国の通商政策等の影響を受けて一部に弱めの動きもみられるが、総じてみれば緩やかに成長している。輸出や鉱工業生産は、一部に米国の関税引き上げに伴う駆け込みとその反動の動きがみられるが、基調としては横ばい圏内の動きを続けている。企業収益は、製造業において関税による下押しの影響がみられるが、全体としては高水準を維持しており、業況感も良好な水準を維持している。こうしたもとで、設備投資は緩やかな増加傾向にある。個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、雇用・所得環境の改善を背景に底堅く推移している。一方、住宅投資は減少している。この間、公共投資は横ばい圏内の動きを続けている。わが国の金融環境は、緩和した状態にある。物価面では、消費者物価（除く生鮮食品）の前年比をみると、賃金上昇の販売価格への転嫁の動きが続くもとで、米などの食料品価格上昇の影響等から、足もとでは3%程度となっている。予想物価上昇率は、緩やかに上昇している。

2025年10月 日本銀行

●業況及び売上額、収益の前年比D I の推移（全種合計）



この調査のご案内

- **調査の時期** 令和7年12月1日(月)～5日(金)
- **調査対象** 当金庫お取引先企業数 457社
回答企業数 457社 (回収率 100%)
- **調査方法** 調査員による面接聞き取り法、またはご回答企業による直接記入法
- **分析方法** この調査の分析はDI(ディーアイ)を景気判断の指数として用います。
※DIは、「増加」「上昇」「楽」と答えた企業割合から「減少」「下降」「苦」と答えた企業割合を差し引いた数値のことです。

(注) この天気図は本調査のDIを総合的に判断し作成したものです。



●業種別・従業員(除くパート)規模別調査対象企業数

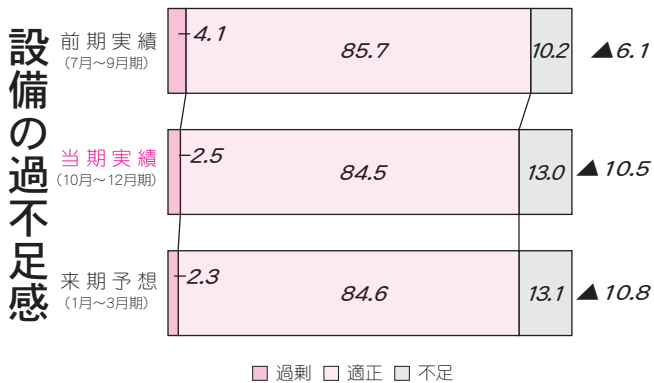
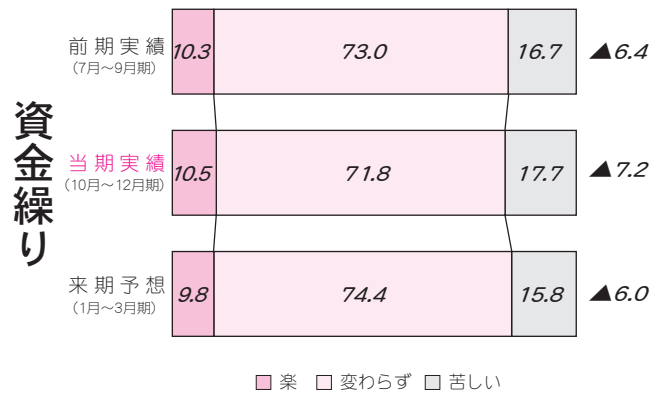
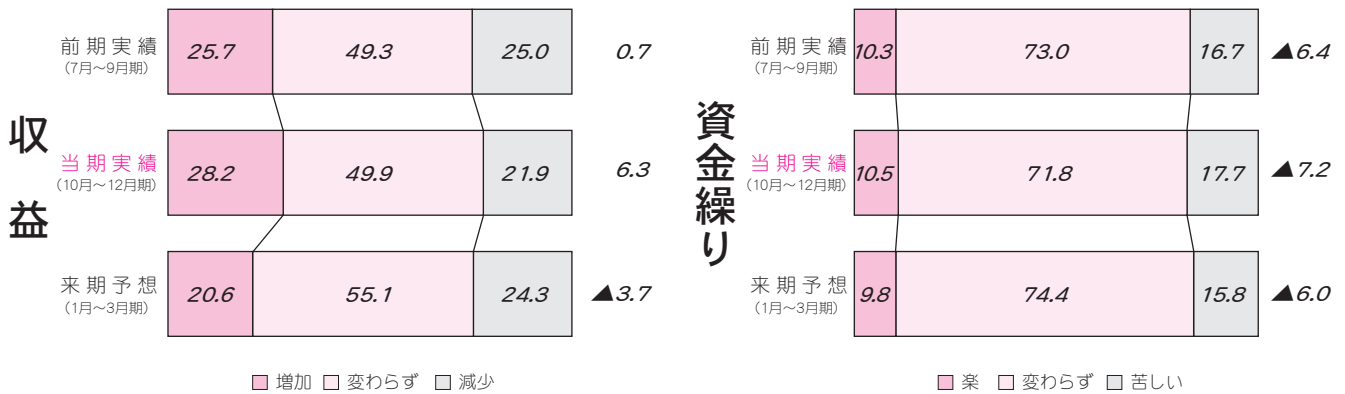
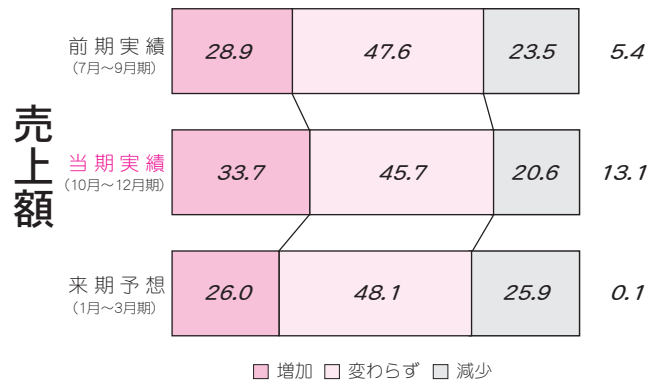
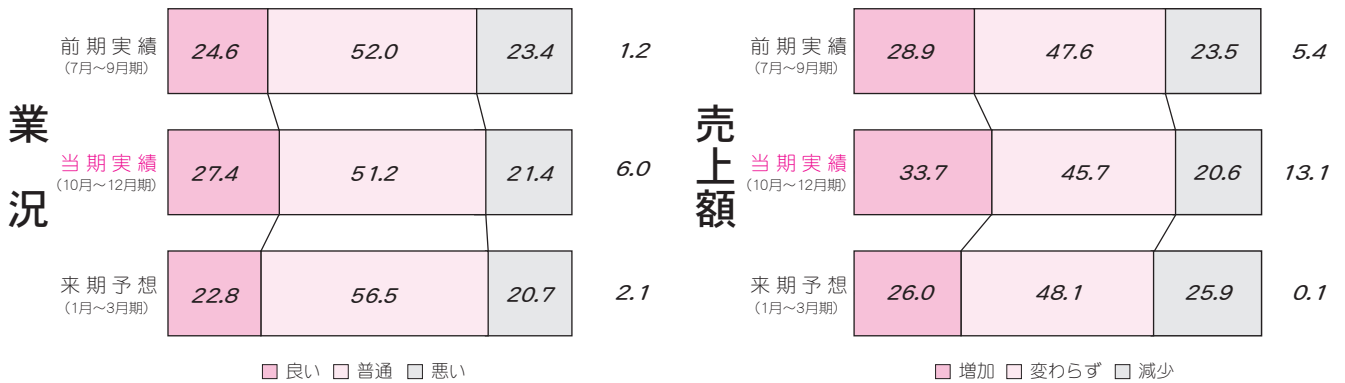
	製造業	卸売業	小売業	建設業	不動産業	サービス業	合計
1~4人	23	21	53	29	34	18	178
5~9人	22	3	19	21	13	7	85
10~19人	19	10	9	25	4	9	76
20~49人	19	7	9	16	6	7	64
50~99人	15	1	1	5	1	2	25
100人以上	5	2	6	1	4	9	27
合計	103	44	97	97	62	52	455

全業種総合 業況は好調幅が拡大

前期	当期	来期

当金庫営業エリア内の「中小企業景気動向調査」による全業種の業況判断DIIは、前期1.2から当期6.0と好調傾向。（前回調査時における当期予想は0.8）来期は2.1と後退する予想となっています。

天気図で見ますと、総合では前期、当期、来期と「薄曇り」が続いています。業種別では、建設業を除く業種が前期からの「薄曇り」が続いています。来期は、建設業と不動産業において「晴れ」へ好調、卸売業と小売業が「曇り」へ後退し、その他の業種は「薄曇り」が続く予想となっています。



●設備投資の実施割合

